

## ご 挨拶

一般社団法人 日本小児はり学会  
会長 恵 美 公二郎

まずはじめに、3月11日に発生しました東日本大震災の犠牲になられました方々、また、関西地方を襲った台風12号の犠牲になられました方々に衷心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興を祈っております。16年前の阪神淡路大震災では、全国各地から届いた業友の温かい支援の手を忘れることが出来ませんし、また大変勇気付けられたものです。

さて、はり学会も早いもので設立してから四年の月日が経過し、ここに到って漸く本会に対しまして昨年来、各都道府県から実技講習会の講師を依頼されるようになりました。先日もはるばる高知県まで、本会理事野々井康治先生が実技講演に出向いてくださいました。このことは、本会の知名度が上がったというだけでなく、全国の鍼灸師が小児はり臨床に対する意欲が高まった表れであると思います。当初、設立目的の一つであった小児はりの伝承と啓発が達成されつつあると感じ、喜びに堪えません。

そしてさらに、今年度10月にドイツ・フランクフルトで開催が予定されております日本伝統医学協会学術集会に日本小児はりの紹介という内容で講演依頼を受けました。一昨年、第三回学術集会のご講演にお越しいただき、昨年は本会顧問を心良くお引受け下さいましたトーマス・ヴェルニック先生が会長に、また、講義の通訳と昨年も来日され設立に多大なご尽力を払われましたフランク・ビュットゲン先生が副会長にご就任されたことを聞き及んでいます。そして、小児はりをヴェルニック先生に指導され、国際的發展への礎を築かれた本会理事谷岡賢徳先生からのご推薦をいただいたこともありまして、浅学ながら私が日本小児はり治療方法を紹介させて頂くこととなり、その重責を感じているところです。

今、医学発信拠点であるドイツでの西洋医学を極められた先生方まで、かつて日本で積極的に行われていた小児はりを学ぼうと真摯に取り組もうとしておられるのです。

ドイツから日本また鍼灸治療効果の科学的解明が成され現在、我が国では保険適用が認められている解熱剤、抗生剤、鎮痛剤等化学薬品投与だけでなく、個々によって異なる様々な神経症状に対して、薬だけでは対応できないのです。実はこういった神経症状に大きな効果を示したのは、かんの虫治療に述べました鍼灸治療のほかありません。今では統合医療として、鍼灸治療を活用する病院も在るようです。